

主要科目の特徴（医学部）

科目名	特長
[1年次] 医療プロフェッショナルリズム入門	<p>医療者・研究者として活動するためには、何よりもプロフェッショナルとして、高い倫理性・自己規制・行動規範を有し、自己・他者の人間存在を理解し尊重する姿勢を身につけなければならない。「医療プロフェッショナルリズム入門」は、プロフェッショナルの医師を志すあなたが以下のような様々な側面から医の世界を捉え、確かな技能と知識とともに、他者の尊厳や価値観を理解・尊重できる豊かな人間性をもった医師として成長していくことを目標として設定されている。年間を通した多職種連携：早期体験実習（3つの体験実習と1回の合同演習）をコアとして構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生と死、健康と疾病の意味を理解し、人間に向き合う医師という職業について学び、医師のあるべき姿・倫理を考える。 ・現代医学の歴史的背景の理解を通して、医の世界を視る広い視野を育てる。 ・社会と医学・医療の関わり合いを、福祉、高齢者介護・医療施設などの実習を通して理解し、社会が医学に何を求めているか、また、医学が社会に対して、どのような影響をおよぼしているかを理解する。 ・医療現場における様々な職種とその役割を学び、将来、どのように協働すれば患者第一の医療を提供できるかを考える。 ・基礎・臨床医学の最先端に位置する先生方の話を聞き、今日の医療が捉えている人間像を知る。
[1年次] 医療入門	<p>医療入門では5つのカテゴリーの講義を通じて、以下のことを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の概念と将来医療の場で実践する知識ScienceとこころArts ・医療者のコミュニケーション：良好な医師-患者関係を築くことができる医療面接や診察について学ぶ前段階として、面接を行う際の態度・言葉遣いや環境、相手の立場・年齢・気持ちに配慮したコミュニケーションスキル ・医学生・医療者であるという自覚と健康：医療チームの健康と安全を確保して患者中心の信頼される医療を将来提供するために、今理解すべきこと・今開始すべきこと・今後行うべきでないこと ・緊急事態に対応する医療入門：日常（学生）生活に潜む病気や外傷の原因と予防や対処法・緊急事態に遭遇した時の医学的応急処置 ・地域医療とチーム医療：保健・福祉・介護を含めた地域医療の重要性と基本理念・医療チームの多職種連携、さらに「医療プロフェッショナルリズム入門 多職種連携：早期体験実習」に必要な準備と授業担当先輩医師・医学研究者のキャリアのみちすじ
[1年次] PBL (Problem-based Learning)	<p>PBL (Problem-based Learning：問題解決型学習) では、学習に対するモチベーションの向上を計ることを主目的とした少人数グループの学生参加型授業を通じ、資料収集、ディスカッション、プレゼンテーション等の能力を身に付ける。</p> <p>[2024年度開講科目]</p> <p>「水と生命」、「法則と方程式」、「プログラミングとアルゴリズム」、「素粒子の$\alpha\beta\gamma$」、「医療の思想と倫理」、「Medicine from a Global Perspective」、「生物の多様性」、「Can we trust diet studies?」、「ことばの力、the power of words」、「医事ニュースを読み解く統計学」、「健康を支える科学」、「錯覚錯視の原理と応用」、「Listening Skills: Development and Assessment」、「バイオマテリアルと医療」、「身近な毒との微妙な関係」、「Health Economics」、「Diversity in culture, language use, and language learning」、「患者さんから見た医療」、「AIと医療」</p>
[3年次] 基礎ゼミナール	<p>基礎医学・社会医学系の講座・研究室、研究センターに所属し、教員の指導のもとに次のことを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習、調査に参加し、新しい知見を得るための科学的方法のプロセスを学び、実践的に身につける。 ・医科学・医療のテーマにつき、能動的に文献を検索し、批判的に読解・分析してまとめ、発表する訓練を行う。 ・テーマに関連する英語論文・総説を読み、研究の成果がどのように論文・総説に発表されているかを知り、医学における研究の重要性を理解する。
[4年次] 臨床実習前トレーニング	<p>一般教育・基礎医学・臨床医学の知識と早期体験実習（病院見学、看護実習、施設実習、災害医療トレーニング等）や臨床基本手技・診察技法・医療面接等の実習により基本的な態度・技能を修得した段階で、臨床現場での臨床実習のための準備教育を行う。臨床実習前トレーニングは、臨床コア実習以降の実習に円滑に参加できるように、臨床現場での診療参加、発表、討議、コメディカルや患者・家族との良好な連携等を通して、臨床判断ができ、基本的な診療能力を身に付ける。</p>
[4・5年次] 臨床コア実習	<p>4年次臨床コア実習では、まず内科（消化器、循環器、呼吸器、神経）、外科1・2、小児科、産婦人科、救急、精神科等をローテートする（精神科は5年次から）。5年次臨床コア実習は、基本的に4年次臨床コア実習の継続であり、5年次の最初約3ヶ月間続く。基本的な4週ずつの実習内容は4年次と変わらない。診療グループの中では、上級医・研修医の診療チームの一員として、診療参加型臨床実習を行う。</p>
[5・6年次] 臨床エキスパート実習	<p>臨床コア実習では、内科（消化器、循環器、呼吸器、神経）、外科1・2、小児科、産婦人科、救急等を実習した。臨床エキスパート実習では引き続きコア科の精神科を4週間実習後、全診療科、老年医学（順天堂東京江東高齢者医療センター）等の実習を行う。また、地域医療実習では学外の各種医療施設において実習を行う。実習は可能な限り診療参加型臨床実習とし、診療グループの中で上級医・研修医の指導下で、診療チームの一員として実習する。</p>
[6年次] 学生インターンシップ実習	<p>臨床実習（コア実習、エキスパート実習）が終了した段階で、研修医と同様の立場で診療参加型実習を行う。診療チーム（指導医、上級医、研修医、看護師等）の中で診療に参加する。自分の興味をもった臨床分野、施設での実習を通して、医師としての日常診療を体験する。患者を診察するだけでなく、医療倫理（インフォームドコンセント等）や医療安全、各種感染対策、診療録の記載、診療計画の立て方、様々なオーダー出し、カンファランスでのプレゼンテーション、コメディカルとの連携等、医師としての役割を知り、可能な限り体験する。この実習では、学生自身が診療グループの一員として、診療チームに積極的に係り、医師としての医療現場を体験する貴重な機会となる。臨床現場では、常に不足した、あるいは曖昧な知識を検証する。臨床判断のための情報収集法を知り、得られた情報から根拠ある臨床判断に辿り着くまでを自ら考察して、カンファランスや回診等で発表し、討論にも積極的に関与する。</p>